

第1回千葉県多文化共生推進プラン策定懇談会の開催結果概要

- 1 日 時 令和6年6月12日（水）15:00～17:00
- 2 方 法 オンライン開催
- 3 出席委員 小野委員、加藤委員、坂元委員、清水委員、高橋委員、玉造委員、
寺井委員、戸塚委員、中村委員、森竹委員、吉野委員

議題1 これまでの取組の成果と今後の課題について

事務局から、プラン改訂に向けた社会的背景、県の取組・課題を説明した後、各委員から御意見をいただいた。各委員からの主な発言は以下のとおり。

<各委員のこれまでの取組について>

- ・市川日本語学院では、地域との連携に力を入れてきた。子供日本語教室の開催や出前授業、地域のお祭りへの参加等、外国人留学生と日本人の地域の方の絆を深めていく取り組みをしてきた。
- ・日本語力が不十分なため、転職するケースが多い。ハローワークでは、「しごとのための日本語」研修を実地・オンラインで開催しており、日本語に加え、日本の職場習慣、雇用慣行等を学習できる。
- ・国際人材協力機構（JITCO）では、技能実習制度や特定技能制度、今後は育成就労制度に関する情報をホームページで発信し、雇用管理についてのセミナーやコンサルティングを実施し、県内企業を支援する。
- ・日本貿易振興機構（ジェトロ）では、海外に携わる企業の支援をしているが、その対象として、海外展開業務目的に限らない外国人雇用が増加しており、外国人材の活躍の場が確実に増えている。留学生による理解を深めるためにインターンシップが効果的だが、実施には調整等にハードルがあり、行政の支援があるとよい。

<就労に関する課題>

- ・県内での就職に意欲的な留学生等のために、企業の合同説明会やインターンシップ、マッチングの機会を増やしてほしい。
- ・県内中小企業の人手不足は深刻であり、外国人を雇用したいと考えていると思われるが、小規模事業者には資金や時間の余裕がないため、体制を整えられない。言語の問題もあり、行政の支援が必要。相談窓口があるとよい。
- ・日本で就職したいと考える留学生が増えている。しかし、大学のキャリア支援

センターでは留学生向け支援が盛んではなく、日本の学生に混ざってしまうと採用が困難となるため、もっと積極的に取り組んだ方がよい。

<子どもの支援に関する課題>

- ・親の仕事の都合で日本に来て、日本の高校を卒業すると、大学受験時に一般枠で受験することになってしまうため不利になる。特別枠を設ける等の対応が必要。留学生入試で対応するのもよい。
- ・子どもの教育環境の整備は依然不十分。前プランの課題として、「相談員の増加」が挙げられていたが、増員だけで解決する問題ではない。就学前に日本語を集中的に学ぶプレスクールや、学校に行きながら日本語を集中的に学習できる体制づくりが必要。
- ・学校卒業後までサポートするには、学校、教育庁だけではなく、様々な主体が連携して多面的に問題を解決する体制が必要。

<日本語支援に関する課題>

- ・日本語支援ややさしい日本語の普及に関わるボランティアが高齢化している現状を踏まえ、大学生や高校生に「日本語支援」に関する講座を受講してもらい、日本語支援の担い手になってもらえるとよい。
- ・ボランティアで地域日本語教室等を運営している団体を支える施策を考えていかななくてはならない。
- ・これから更に外国人が増えると地域の行政だけでは、太刀打ちできない状況になる。入口の時点で、日本語教育や生活ガイダンスを実施したり、通常の学校で学び始める前のプレスクールを設ける等、国に要望していくことも考えた方がよい。

<生活環境の整備についての課題>

- ・外国人の視点で施策を考える必要がある。
- ・県、市、NPO等がもっと連携して、風通しを良くすると、外国人、日本人皆にとってプラスになると思う。
- ・外国人支援の情報が、必要な人達に行き渡っていない。
- ・外国人が増えると、外国人という括りだけでは対応できない。福祉や教育など、行政機関の中でも横串を通す必要がある。
- ・自治会や祭り、公園の掃除等に外国人がもっと参加できるように、日本人と外国人の壁がなくなるような施策があるといい。
- ・日本語が不十分であるために、医療機関で受診できないケースがよくある。これらの

事例をなくすための取組が必要である。

- ・銀行口座の開設が難しい。開設できないと、母国からの仕送りがとても不便になる。
- ・国で行っている通訳支援制度は、様々な自治体の窓口担当課等で登録されているにも関わらず、担当者が把握していない可能性が多い。もっと活用されるべきである。

議題2 改訂の方向性について

事務局から、改訂の方向性を説明した後、各委員から御意見をいただいた。各委員からの主な発言は以下のとおり。

<就労について>

- ・日本での就労をキャリアのワンステップとして考え、家族を母国に残して一時的に就労している方への配慮があると、県としての魅力が上がると思う。
- ・広範囲な年齢層で、大学卒業後、家族と共に日本で人生をやり直そうという人も増えている。マッチング機会を増やしてほしい。留学生に特化した合同説明会をやしてほしい。
- ・労働人口の減少に伴い、県内の中小企業の存在自体が危うい。存続のためには外国人の雇用は避けられない。受入体制を整えるために、受入企業側に係る施策を増やしてほしい。
- ・企業に就職するだけでなく、起業することもある。今はそのためのビザもある。起業して活躍できる環境を提供する千葉県を打ち出すことも必要ではないか。
- ・県内に外国人が就職できる企業が多くない。日本語能力試験でN1認定の外国人留学生でさえ、一定以上の規模の企業に就職するのは難しい。

<生活環境について>

- ・家族も帯同できる特定技能2号の合格者が増えてきている。今後も増えることが予想され、家族も含め安心して生活できる環境整備が必要である。
- ・日本語学校ともっと連携する仕組みづくりがあってもいい。日本語講師もぜひ活用してほしい。
- ・留学生が地域の担い手として活躍できる仕組みがあるとよい。
- ・災害が発生したときに、避難所等を安心して利用できるよう、「やさしい日本語」がもっと普及すると良い。
- ・仕事に対する姿勢には問題がなくとも、生活していく上でのルールが守れないために雇用継続が困難なケースがある。地域の交流が増え、地域住民との相互理解が進めば、解決につながると思う。

- ・日本語教育をはじめ、多文化共生の取組に当たっては、ボランティアに頼っているのが現状である。正当な対価を払うことが必要である。

<プランの内容について>

- ・名称に「外国人活躍」とあるが、未だ「日本人」と「外国人」の区分が必要か疑問。
- ・目標中に「外国人」と記載されている点は疑問。目標中では「すべての県民」としつつ、具体的な記載中で「外国人」としてもよい。
- ・「支援」とすると、一方通行の印象がある。支援だけではなく、自分の足で立って活躍できる人を目指すことを加えてもよい。
- ・外国人の中には、日本人には想像の及ばない宗教観を持つ人がいる。プランの中で宗教についても配慮を要する事項として触れてはどうか。
- ・成田空港を擁する千葉県独自の記述があるとよい。
- ・プランの計画期間を今年度中からとしている点や、進捗管理のための指標を設定する点に前向き感を感じた。県と連携して前向きに取り組みたい。
- ・ライフステージ、ライフスタイルごとに施策を分けした方が分かりやすい。
- ・人的不足を踏まえた、ICT等に関する記載があるとよい。

<プランの進捗管理について>

- ・現状を基にした指標では、新しい事業（プレスクール等）の成果を測ることができない。
- ・施策の評価にふさわしい指標が何かをまず考えなければならない。
- ・どのような指標を設定すれば、成果を検証できるのか、その判断は難しい。
- ・年度ごとにやるべきことを明確に示した方がよい。
- ・毎年何をするかを設定し、何を達成したか進捗状況を把握し、レビューしていくことが、次に進むために必要である。
- ・県の取組を検証する機関があるとよい。